

ZoneC：持続可能なコミュニティをコーディネートする ～「変わりながら続く」という営み～

私たちの身边には、気づかぬうちに長く続いている営みがあります。季節の慣習、地域の祭、学校の行事、仕事の手順・・・日々の暮らしの中で当たり前のように、恒例のものとして巡ってくるそれらの営みを、誰もあえて凝視しないかもしれません。しかし、「いつも」の営みは、「いつも」同じ姿のままで続いてきたのでしょうか。世代を超えて受け継がれてきた営みのあり方を見つめることは、「続く」とは何かを問い合わせ入り口になる予感があります。

何かを続けるという行為を振り返ってみると、私たちはまず「これまでの形」を守ろうとしがちであることに気づきます。そこには、慣れ親しんだものへの安心と、未知へ踏み出すことへのためらいがあるのだと思います。前回のZoneCでは、そのためらいの奥底に、変化と多様への希求が潜んでいることを発見しました。守りたいけれど変わりたい、みんな一緒にいいけれどバラバラなカラフルさにも心惹かれる・・・もしかしたら、その揺らぎの中にこそ、営みが続していく力が宿るかもしれません。そのような揺らぎの場に目を凝らしてみたいと思います。

今回のZoneCが取り上げるのは「福井市東郷地区おつくね祭」です。長い歴史を持つ祭であると同時に、担い手やかたちを変えつつ受け継がれてきた地域の大切な営みです。それぞれの立ち位置からこの祭を支えてこられた方々をお迎えし、その歩みや思いに耳を澄ませるところから今回のZoneCは幕を開けます。受け継がれてきた営みの背後には、過去と現在と未来が交わりながら、違いを持つ人やコミュニティが響きあうダイナミズムが浮かび上がってくるはずです。何が、変化と持続を生み出し、支えてきたのでしょうか。ひとつの祭を手がかりに、「変わりながら続く」とはどのような営みなのかを、ともに探っていきましょう。

おつくね祭の変化と持続を味わった後、ZoneCは、私たち自身の歩みの振り返りへと移っていきます。おつくね祭と同じように、私たちもまた何かを大切にしながら、さまざまな出会いや実践の中で変化と持続を積み重ねてきたのではないでしょうか。その軌跡を辿り直すとき、当たり前のように過ぎてきた出来事が、これまでとは違う表情を見てくれるかもしれません。その先に、「変わりながら続く」という営みの意味が、私たちの歩みと重なりながら浮かび上がることを期待しています。

ZoneC は、地域・学校・企業・NPO・行政など、多様なコミュニティに関心を持つ人びとが集う対話の場です。事例に耳を傾け、小グループで語り合い、気づきをわかちあいます。ためらいを抱えたままで大丈夫です。皆さんとの対話を通して、ZoneCもまた、変わりながら続く営みでありたいと願っています。

●タイムテーブル

- 14:00～ オンライン接続開始
- 14:30～15:30 主旨説明・話題提供・対談
- 15:30～17:40 小グループ対話・全体対話